

味の素東海事業所バードサンクチュアリ

環境生態調査報告書



調査結果

本調査報告書は、カイボリ工事が行われた平成28年1月末から2月18日までに、バードサンクチュアリで観察記録された生物を報告するものです。

調査の結果、鳥類は、29種類、魚類1種（特定外来種）、両生類1種（特定外来種）エビ目ザリガニ科1種類（要注意外来生物）が確認されました。この中には、希少種のオオタカ（三重県レッドデータブック**絶滅危惧Ⅱ類（VU）**）も含まれています。

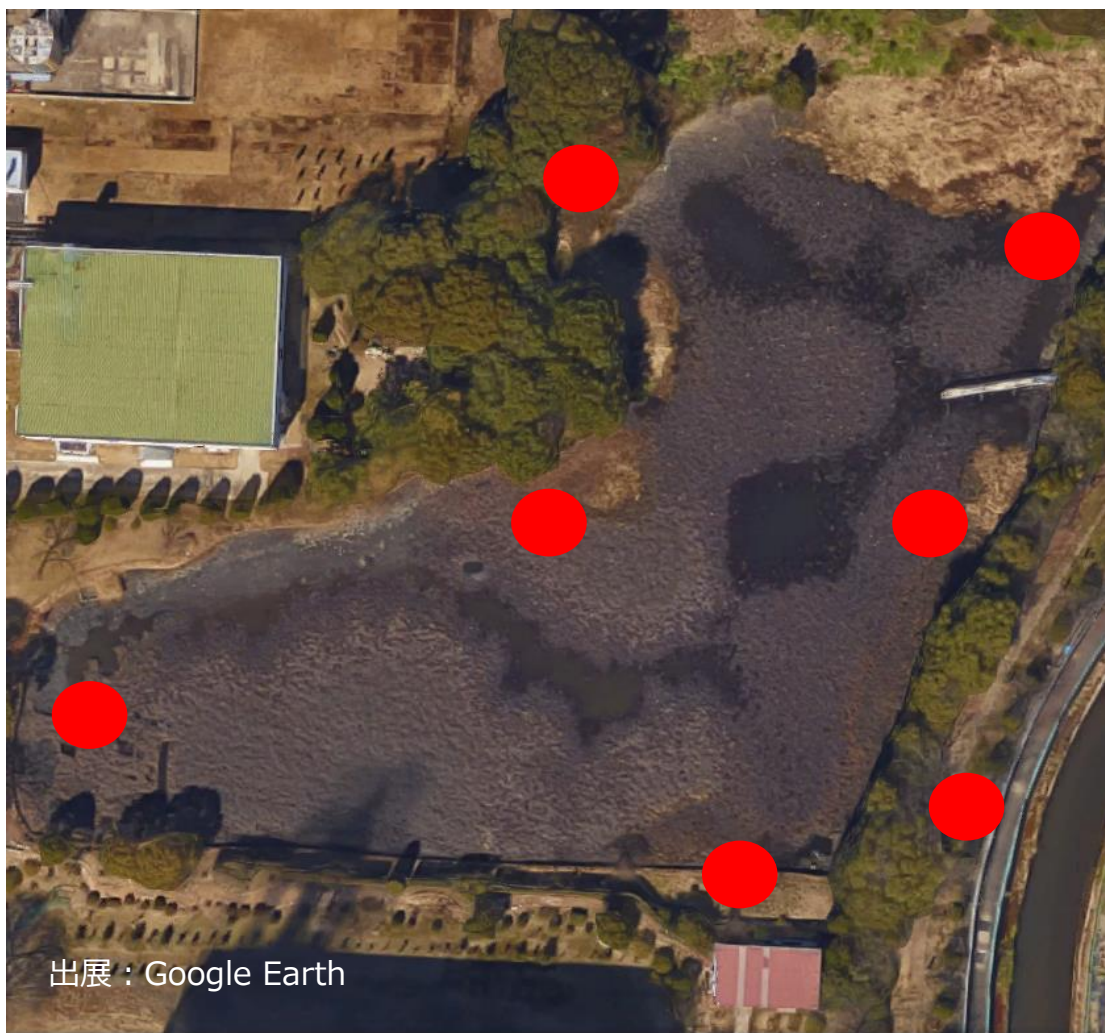
昨年と比較したところ、鳥類やその他の生物について、ほとんど変化はありませんでした。カイボリ工事に伴う極端な環境影響は、ないものと考えられます。しかしながら近年、実施されるカイボリがきっかけで鳥類の飛来数に変化があった事例が三重県内で確認されていることから、今後、バードサンクチュアリの野鳥について、継続的な観察と記録をとり、環境影響について、注視していく必要があります。



三重県レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類（VU）のオオタカ
バードサンクチュアリ北側の高木に飛来、その後コガモを捕食
2016年2月3日（水）撮影（榊枝）

調査地点

調査は、バードサンクチュアリの下記の場所で行いました。○印で示します。



調査方法

調査は、次の方法により行いました。下記に調査方法を示します。

≪鳥類≫

双眼鏡、目視による確認。その場で判定が難しい場合は、写真や映像で記録後、後日確認した。

≪魚類、エビ≫

タモ網による採取、カイボリ用排水ホース先に設置した外来種流出防止ネットにおける採取、干上がった池の中で採取した。

調査結果（鳥類）

調査結果は、次の通りです。昨年と比べて特に大きな違いはありませんでした。カイボリに伴い、野鳥たちはバードサンクチュアリ以外の場所へ移動していましたが池の水位の回復に伴い再び確認できるようになりました。カイボリ中、野鳥たちは、バードサンクチュアリ横の雨池川や雨池川下流のポンプ場付近、大井の川河口に移動し生活していました。ちなみに、大井の川河口は、四日市市内で越冬する冬鳥たちの越冬場所です。

No.	目名	科名	種名（和名）	2015年	2016年	備考
				1月-2月	1月-2月	
1	カモ	カモ	ヒドリガモ	○		
2			マガモ	○		
3			カルガモ	○	○	
4			ハシビロガモ	○	○	
5			ホシハジロ	○	○	
6			コガモ	○	○	
7	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	○		
8	ツルメ	クイナ	バン	○		
9	ハト	ハト	キジバト	○	○	
10			アオバト			
11	カツオドリ	ウ	カワウ	○	○	
12	ペリカン	サギ	ゴイサギ	○	○	
13			アマサギ			
14			アオサギ	○	○	
15			ダイサギ	○	○	
16			チュウサギ			
17			コサギ	○	○	
18	チドリ	チドリ	コチドリ			
19		シギ	イソシギ		○	
20		カモメ	カモメ			
21	タカ	タカ	ハイタカ			
22			トビ			
23			オオタカ	○	○	絶滅危惧種
24			ノスリ			

No.	目名	科名	種名(和名)	2015年	2016年	備考
				1月-2月	1月-2月	
25	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	○	○	
26	キツツキ	キツツキ	コゲラ	○	○	
27	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ			
28	スズメ	モズ	モズ	○	○	
29		カラス	ハシブトガラス			
30			ハシボソガラス	○	○	
31		シジュウカラ	ヤマガラ			
32			シジュウカラ	○	○	
33		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	
34		メジロ	メジロ	○	○	
35		ムクドリ	ムクドリ	○	○	
36		ヒタキ	シロハラ		○	
37			アカハラ			
38			ツグミ	○	○	
39			ヒタキ課の一種			
40		スズメ	スズメ	○	○	
41		セキレイ	ハクセキレイ	○	○	
42			キセキレイ	○	○	
43			セグロセキレイ	○	○	
44		アトリ	カワラヒワ	○	○	
45		ホオジロ	ホオジロ	○	○	
46		ハト	カワラバト(ドバト)		○	



■ヒドリガモ



■マガモ



■カルガモ



■ハシビロガモ



■ホシハジロ



■コガモ



■カイツブリ



■バン



■キジバト



■カワウ



■ゴイサギ



■アオサギ



■ダイサギ



■コサギ



■イソシギ



■カワセミ



■コゲラ



■モズ



■ハシボソガラス



■シジュウカラ



■ヒヨドリ



■メジロ



■ムクドリ



■シロハラ



■ツグミ



■スズメ



■ハクセキレイ



■キセキレイ



■セグロセキレイ



■カワラヒワ



■ホウジロ



■カワラバト（ドバト）

バードサンクチュアリがつなぐ生物多様性 《食物連鎖》

「食べる（捕食）、食べられる（被食）、分解する」ということを通して、ある一定の地域の生物は、すべてつながっています。このつながりを食物連鎖と言います。バードサンクチュアリにおいても、食物連鎖を通して、周辺の環境とのつながりが見えていきます。その一例は、オオタカやサギ、小鳥たちの存在です。オオタカは、絶滅危惧種に位置付けられる希少な野鳥です。彼らが生息するために、生活を支える環境が整っていないといけません。バードサンクチュアリは、オオタカの大好物のカモの仲間が多数飛来し、越冬する場所になっています。カモたちにとっては、バードサンクチュアリの中は、人があまり立ち入らない安全な環境ですが、オオタカにとっては、貴重な狩場になっています。その証拠に、バードサンクチュアリ北側の森の中には、オオタカに襲われたカモの羽が多数落ちています。

また、オオタカに限らず、バードサンクチュアリの木々は、花を咲かせ、実を実らせます。これらを求めて、小鳥が多数集まってきます。例えば、メジロは、事業所に咲く椿の花に集まってきます。

このようにして、バードサンクチュアリは、事業所とその周辺に生息する野鳥たちの生活を支えているのです。



■オオタカに襲われたコガモ



■椿の密を吸うメジロ

調査結果（魚類、エビ、両生類）

調査結果は、次の通りです。魚類1種（特定外来種）、両生類1種（特定外来種）エビ目ザリガニ科1種類（要注意外来生物）を確認しました。昨年のカイボリ時に、在来種のギンブナは、移動させたため、1匹も確認できませんでした。現在、池の環境に天敵がないため、カダヤシ、ウシガエル、アメリカザリガニが増加傾向にあります。

また、野鳥の巣が集中しているエリアに、大量のザリガニの死骸が落ちています。このことからアメリカザリガニについては、サギがヒナにエサを与えるために、河川や池で捕食しバードサンクチュアリまで運び、ヒナが食べ残したり、巣から落ちた個体が池で繁殖、増加していることが推測されます。

No.	目名	科名	種名（和名）	2015年	2016年	備考
				1月-2月	1月-2月	
1	コイ	コイ	ギンブナ	○		
2	カエル	アカガエル	ウシガエル	○	○	特定外来生物
3	カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	○	○	特定外来生物
4	エビ	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	○	○	要注意外来生物



ギンブナ（在来種）



カダヤシ（特定外来生物）



ウシガエル（特定外来生物）



アメリカザリガニ（要注意外来生物）

